ニュースレターNO.12

2018年12月15日発行

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク

連絡先：大阪市中央区内淡路町1-3-11 シティコープ上町402
市民共同オフィス sora 気付
Email：info@ianfu-kansai-net.org
HP：http://www.ianfu-kansai-net.org/
Blog http://ianfukansai.blog.fc2.com/
TEL：090-8383-4197

日本政府は加害責任に向き合うしか 道はないのだ

2015年12月28日の「日韓合意」から、丸3年が過ぎようとしています。「合意」発表後、韓国では政権に「白紙撤回」を求める被害者や市民の声が高まる一方で、民主化を求める声と一体となりキャンドル市民革命を達成しました。一方日本では、「最終的かつ不可逆的に解決」「『合意』の履行を」と叫ぶ政府やメディアの声が社会を覆いました。いみじくも「失ったものは10億円だけ」と岸田外相が言いましたが、日本政府の姿勢は当初から高圧的で、今日に至るまで変わっていません。

昨年5月、韓国市民は「日韓合意」の見直しを主張する文在寅（ムンジェイン）大統領を誕生させました。7月、文政権は「韓日・日本軍慰安婦被害者問題合意検討タスクフォース」（TF）を設置し、TFは外交省の保管文書等をもとに交渉の経緯と内容を綿密に検討・評価し、12月27日に「被害者中心のアプローチではなく、一般的な外交懸案のように進めた」等の自国政府の交渉姿勢批判や、「合意文書は公開部分と非公開部分（韓国挺身隊問題対策協議会等への説得、性奴隷を使わない等）があり、この方法は日本の希望だった」こと等を明らかにした報告書を発表しました。

TFの報告を受けて、2018年1月9日に韓国政府が発表した新方針の骨子は、＜被害者中心の措置、10億円は韓国政府が充当、財団の後続措置を用意、「合意」は真の解決になり得ない、再交渉は求めない＞というもので、日本政府に対して「自ら、国際的な普遍基準に則って、真実をありのまま認め、被害者の名誉と尊厳の回復と心の傷の癒やしに向けた努力を続けることを期待する」と投げかけました。その後、韓国政府は7月に10億円の予算確保をし、11月21日、「和解・癒し財団」解散をようやく発表しました。日本軍性奴隷制問題解決のための正義記憶連帯（今年7月、韓国挺身隊問題対策協議会と「合意」に反対して市民が結成した正義記憶財団の統合でできた団体）の切れ目のない闘いの成果です。

朝鮮半島では今年、南北首脳会談が三度開催され、6月にはシンガポールで米朝首脳会談まで実現し、ようやく訪れた雪解けムードに喜びをかみ締めた人は多かったことでしょう。しかし、自国の加害責任を認めることができない安倍政権は歓迎せず、拉致問題解決のための日朝会談への足掛かりも作れずにいます。韓国に対してもますます硬直化しており、戦争中に強制連行され、日本の軍需工場で賃金も支払われず過酷で危険な労働を強いられた強制動員被害者（徴用工）に個人賠償請求権を認める韓国大法院の判決が続いていますが、これに対しても「日韓請求権協定で解決済み」の一点張りです。しかし日本政府こそ、原爆やシベリア抑留等の日本人の被害について「個人請求権は消滅していないので相手国で訴える権利はある」と、政府が補償責任を負わない論拠としてきているのです。

安倍首相は今年の9月、自民党の規約を変えて三度目の首相の座を手に入れました。「戦争ができる国」作りをひた走り、すでに世界第8位の軍事力大国になっていますが、その実態はトランプ大統領から超高額兵器をローンで買わされ、世界一の借金国なのです。さらに、安倍首相は「労働力不足」と出入国管理法改悪

も強行しましたが、すでに外国人技能実習生の67%が最低賃金以下で働かされ、長時間労働や暴力に苦しみ、行方不明者や自殺者等が続出、同意書の項目に「恋愛をしないこと」とあったり、妊娠がわかると「中絶か、強制帰国か」と迫られるというようなひどい人権侵害が後を絶たないということが明らかになっています。抜本的な対策も行わず、外国人を身勝手に使役し続けようとすることは許されません。戦争中の強制動員の発想と、どれだけ変わったと言えるのでしょうか。

世界各地での＃Me Too や＃With You の運動の高まりの中で、今年のノーベル平和賞は性暴力被害の根絶を訴え続けているイラクのヤジディ教徒のムラドさんと、レイプ被害を受けた女性たちの治療を続けているコンゴのムクウェゲ医師に授与されました。ムラドさんは、「(被害に遭っている) 女性を自由にするために、世界195カ国の指導者たちの良心が働かないことは信じられない。もしもこれが商業や油田や武器の輸出だったらどうだろうか」と受賞講演で鋭く指摘しました。私たちも、セクハラ被害を受けた女性を攻撃する大臣やセクハラ発言をする議員や官僚に、安倍首相が責任を取らせないことは信じられません。医学部入試では長年、当たり前のように女性の受験生が不利な扱いを受けていたことがようやく明るみに出ました。

ムラドさんは、「私はもう同情はいりません。それらの気持ちを、行動に移して欲しいのです」と言っています。私たちもムラドさんに続いて、女性への性暴力や差別を許さず、「慰安婦」問題の解決を勝ち取っていきましょう。

11.25 女性に対する暴力撤廃国際デー　2018/11/23

「ここで生きてきた」 アジアの日本軍性奴隷サバイバーたち～

安世鴻さん 映像とお話し

11 月 25 日は女性への暴力撤廃国際デーです。
今年のノーベル平和賞は、戦時性暴力問題に関わってきたコンゴのデニ・ムクウェゲ医師とイラクのヤジディー教徒でサバイバーのナディア・ムラドさんでした。世界で今も続く戦時性暴力問題に光があたりましたが、ムラドさんは正義をもとめて声をあげ続けると、その厳しい闘いへの決意を述べています。
日本軍「慰安婦」サバイバーたちは 27 年間その闘いの先頭に立ってきました。
しかし、加害国日本ではその歴史の事実を否定する動きが広がっており、 その記録や継承の必要性が問われています。

戦場に残され、戦後を生きてきた元「慰安婦」女性たちを訪ねてきた写真家の安世鴻さんは、1996 年に仕事で「ナヌムの家」を初めて訪ね、その後 3 年間、ボランティアとして通い続け、ハルモニたちとたくさんの話をし、一緒に できることを一つひとつやろうと決意したそうです。

2001 年に初めて中国へ行き、解放後も朝鮮半島に帰れなかったサバイバーたちと出会い、多くの人に「慰安婦」 問題への関心を持ってもらいたいと、写真展を始められました。

ミニ写真展の様子

フィリピンでは家族がデモに参加

東ティモールの被害者

朝鮮民主主義人民共和国の状況

2013年以降訪れるようになったフィリピンでは、ロラたちが歌や踊りを通して感情を解きほぐし、日本大使館への抗議デモに、家族や遺族たちがロラの写真を掲げて参加しているのに感動。インドネシアでは、自宅すぐ近くの「慰安所」に連行され、過去から逃れるために故郷を捨てた例が多いこと、東ティモールでは、日本軍は補給を断たれてコンドームの支給もなかったため、妊娠の可能性がない幼い少女が標的にされたことなど、一人ひとりのサバイバーの人生を紹介しながら、 それぞれの地域性も話されました。朝鮮民主主義人民共和国にも訪問しましたが、サバイバーには面会できていないそうです。女性たちと会う時は、まず話を聴くことに集中し、思いを伝えてもらえるようになってから写真を撮ると語られた世鴻さん。持参してくださった写真10枚とそれぞれの説明文を会場内に展示し、参加の皆さんに、心の奥深くまで伝わるような女性たちの表情を見てもらうことができました。最後に、約80人の参加者から 世鴻さんの今後の活動に対して寄せられたカンパを渡して、集会を終えました。

アピール

11・25 女性に対する暴力撤廃国際デーを迎えて
～今こそ戦時性暴力を根絶し、女性の人権が守られる社会を実現させよう！～

1999年からスタートした「女性に対する暴力撤廃国際デー」は今年で19回目を迎えます。しかし、未だに女性たちを取り巻く世界の現実は大変厳しいものです。

そうした中、今年のノーベル平和賞は、ISの性奴隷にされて脱出後、被害者救済を訴え続けてきたヤジディ族のナディア・ムラド・バセ・タハさんと、コンゴ民主共和国で紛争下の性暴力被害者たちの治療と支援にあたってきた医師のデニ・ムクウェゲさんが選ばれたことは、大きな希望を抱かせてくれました。ライスアンデシェン選考委員長は、賞発表後に日本軍「慰安婦」問題に触れ、「高齢になった韓国の女性たちが、勇気を出して何が起きたかを語った。彼女たちも性暴力の被害者だ」と述べています。

現在、全世界の女性の3人に1人が身体的または性的暴力を受けたことがあると言われています。この瞬間にも世界の各地で、家庭や職場などで、あるいはネット上で、レイプ、セクハラ、虐待などの被害が繰り返されており、紛争下でのレイプや性奴隷状態もなくならず、また人身売買も止むことがありません。

こうした現実に、女性たちの「＃Me Too」運動は大きな声となって、世界中に拡がっています。日本ではまだ、女性たちのこの運動への理解と共感が充分に深まったとは言えませんが、女性たちはさまざまな取り組みを続けています。そして、勇気を持って沈黙を破り、抗議に立ちあがった女性たちに「＃With You」の声をあげています。伊藤詩織さんは実名で性暴力被害を訴えました。財務次官による女性の記者へのセクハラ事件では、加害者を擁護する政治家の発言に大きな批判が起きました。さらに大学入試における女性差別までも明るみに出されました。沈黙を破ることは変革への第一歩であり、それを示した日本軍性奴隷被害者たちから今へと続く闘いを忘れるわけにはいきません。

日本軍による性奴隷制度を訴えた女性たちの声を記憶し、女性への暴力をなくすために市民によって建てられる記念碑や「少女像」は世界で増え続けています。これに対して日本政府は国家予算を投入し、外務省や大使館を通じて国を挙げて非難、妨害活動を行っています。このような恥ずべき行為をただちに止めて、「被害者中心アプローチ」にもとづく解決を求める国際社会の声を実行に移すべきです。

日常的な性暴力を容認し加害者を擁護する社会から、暴力をなくすことはできません。

私たちは引き続き日本軍性奴隷制問題の早期解決実現と、すべての女性たちの人権と尊厳が守られ、あらゆる暴力を許さない平和な男女平等社会の実現のため、世界中の女性たちと連帯し、行動していきます。

2018年11月25日　日本軍「慰安婦」問題解決全国行動　共同代表　梁澄子　柴洋子

サンフランシスコ「慰安婦」メモリアル碑建設一周年記念行事に参加して

～性奴隷被害者の痛みを記憶し、繰り返させないという決意に連帯する～

関西ネットの有志は、9月21～25日「慰安婦」メモリアル碑1周年記念行事に参加するためサンフランシスコ（SF）市を訪問しました。まず、碑の建設を進めた市民団体「慰安婦正義連盟」（CWJC）のメンバーとSF市庁へ行き、ブリード市長と市議会宛ての、吉村市長が一方的に姉妹都市関係を解消しても両市民は連携を続けようという「要請書」を、面談したキム議員と市長秘書に渡しました。これまでメモリアル碑設置に反対してきた現地の日本領事は、直前に議員一人ひとりを回り、「大阪から来る団体とは会わないように」と話したそうです。

2013年5月、「（戦場で）慰安婦が必要なのは誰だってわかる」と発言してSF市議会から非難決議を出され、訪問も拒絶された橋下市長は、2015年7月、CWJCが「慰安婦」メモリアル碑の設置を求める決議案を議会に提出すると、リーSF市長（当時）に碑の設置を認めないようにと書簡を送ったのです。歴史認識問題について多額の国際広報費を組んで取り組んでいる日本政府も阻止に動きました。

SF市議会は公聴会を経て、碑の設置を満場一致で決めましたが、2015年12月に就任した吉村大阪市長もまた、「日本バッシング」「日韓合意の精神に反する」等と碑建設を妨害する書簡をリー市長に送りました。2017年9月に碑が完成すると、市の公有物として受け入れないよう、姉妹都市関係解消を持ち出して圧力をかけ始めました。私たちは市長に抗議するとともに、SF市長と市議に日本の市民の声を届けようと署名や激励メッセージを募って送る等、SF市民と連携して行動してきました。

今年4月、日本政府はフィリピン政府に圧力をかけ、設置まもないマニラの「慰安婦」像を撤去させました。フィリピンには400基を超える日本軍兵士の慰霊碑があるというのに、たった1基の「慰安婦」像を撤去させるという恥ずべき行為に対し、外務省に973筆の署名をもって抗議しました。驚いたことに、吉村市長は無残な撤去跡の写真をSNSにあげ、「SFの碑も、政府の予算を使って重機で撤去してほしい」と執拗に攻撃。即座に、抗議し、市役所前抗議行動を行いました。

「慰安婦」記念碑は、性奴隷にされた被害者の尊厳回復と、現在と未来世代が歴史の教訓から学び記憶し、性暴力をなくすことを願う各国の市民が建てています。都合の悪い過去をなかったことにしたい安倍政権が加害責任を認めないかぎり、碑は増え続けます。

昨年12月、SFで碑の公有化が決まり、吉村市長は「姉妹都市解消」を宣言しました。そして今年7月、ブリード新市長に「碑の公有化を中止するなら、姉妹都市を継続してもよい」と6通目の書簡を送り、回答を9月末までにと通告しました。そのような経過の中での、SF市訪問でした。

1周年記念式典は、メモリアル碑「力の柱」が建つチャイナタウンのセント・メリーズ公園で開催されました。「力の柱」は、朝鮮・フィリピン・中国の3人の少女が手をつないで立ち、少し離れて金学順ハルモニ

が見守るというものです。式典には、リー前市長の遺族、マイク・ホンダ元議員、市議や州議員、知事代理、中国総領事、韓国総領事代理も出席。私たちがステージで関西ネットの連帯声明を読み上げると会場から大きな拍手が起こり、日本から参加し、市民の声を直接届けたことの意義の大きさを実感しました。
式典後のパレードでは軽快な歌声にリードされながら、夢中で声をあげました。

10月2日、吉村市長は返信がなかったとして姉妹都市解消通知をSFに送付。ブリード市長は直ちに「一人の市長が両市の市民間に60年以上にわたって存在してきた友好関係を一方的に終わらせることはできない」「像は奴隷化と性的な人身売買の恐怖に耐えるように強制されたこと、そして現在もすべての女性が直面している闘争の象徴であり、犠牲者は私たちの尊敬に値する」との声明を発表しました。

私たちは吉村市長に抗議し、市役所前抗議行動を行い、「すべての人々が尊厳を持って生きる社会、性暴力の恐怖や戦争の手段として利用される恐怖から解き放たれる世界を実現するためにともに連帯する」という関西ネットとCWJCの共同声明を発表しました。

吉村市長はその後も、授業で「慰安婦」問題を取り上げた教員をSNSで個人攻撃しています。維新の会は、国会では自・公と一緒に憲法改悪を狙い、大阪では安倍政権の協力でIR型カジノを実現しようとしています。市民と向き合うどころか、今や安倍政権の補完勢力です。私たちは黙っているわけにはいきません。これからも声をあげ続けていきます。

10.12 吉村大阪市長への抗議行動

共同声明　日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク・「慰安婦」正義連盟

日本軍性奴隷制度の被害者と連帯し、正義実現のために立ちあがった私たち大阪とサンフランシスコ両市の草の根の市民団体・市民は、2018年9月、サンフランシスコ「慰安婦」メモリアル碑の前で出会った。そして、私たちはその残酷な犯罪を、日本やその他のいかなる国においても繰り返させないという強い意志を確認し合い、ここに表明する。

橋下徹前大阪市長は、2012年に「強制連行の証拠があるなら出せ」、2013年には「兵士に『慰安婦』は必要」と発言した。橋下前市長の歴史修正論は、世界中の人々から非難をあび、被害者を怒らせた。金福童ハルモニは「証拠がないとはどういうことか。私自身が証拠だ。軍服を作ると嘘をつかれ、軍人の性の相手をさせられた残酷な歴史を知らないのか」と迫った。

橋下前市長は2015年8月、サンフランシスコ市長に「慰安婦」メモリアル碑建立に反対する書簡を初めて送った。橋下前市長の歴史修正主義を継承する吉村洋文現大阪市長もたびたび書簡を送り、しつこく妨害を続けた。にもかかわらず、2017年9月22日、「慰安婦」メモリアル碑はサンフランシスコ市民の手によって、ついに建ったのだ。吉村市長はさらに碑の公共物化反対を要求して、姉妹都市関係の解消を振りかざし始めた。サンフランシスコ市長は取り合わず、吉村市長は自分の要求を実現できなかった。そして、大阪市議会や市民の反対の声を無視して、2018年10月2日、大阪とサンフランシスコ両市の市民が60年間にわたって築いてきた姉妹都市関係解消を一方的に通知した。

書簡において、吉村市長は「碑の被害者の人数、日本軍の関与の度合い、被害の規模が問題」と主張した。これは、被害者の証言を認めないばかりか、被害者を黙らせ、被害者の存在そのものを歴史から消し去ろうとする行為である。吉村市長が「(戦時下性暴力は)旧日本軍だけではない」と主張することは、この残忍な戦争犯罪の加害者としての日本政府の責任を認めない態度だ。安倍晋三首相、吉村市長をはじめとする歴史修正主義者たちは、偏狭な歴史理解と現実認識の中に捕えられ、被害者の尊厳を深く傷つける発言を繰り返し、国際社会から孤立している。日本政府に残された道は、国際人権原則である被害者中心アプローチで被害者への謝罪と法的賠償を一日も早く行い、日本軍性奴隷問題を解決することである。

今年のノーベル平和賞受賞者の、ISの性奴隷被害者であるイラクのヤジディ教徒のナディア・ムラド・バセ・タハさんは語った。「声をあげられない人々の声になる。正義を求める人々のために立つ」。ブリード サンフランシスコ市長は、10月4日付の声明で鋭く突いている。「被害者は尊敬されるべき人々だ。そして、この「慰安婦」メモリアル碑は私たちが決して忘れてはならないすべての歴史的事実と教訓を我々に思い起こさせる」。私たちは大阪とサンフランシスコで、「#Me Too」「#With You」の声をあげ続ける。

一市長である吉村市長が姉妹都市関係解消を宣言しても、私たち大阪とサンフランシスコ両市の市民の絆は強まった。女性、少女、LGBTやすべての人々が誇りと尊厳を持って生きることができ、性暴力の恐怖や戦争の手段として利用される恐怖から解き放たれた世界を実現するため、私たちは太平洋を越え連帯し続ける。

2018年10月11日

8・14 日本軍「慰安婦」メモリアル・デーを国連記念日に！
金学順さんから始まった『＃Me　Too』
～性産業における被害相談の現場から～　2018/8/12

講　　演　：金尻カズナさん「ポルノ被害と性暴力を考える（PAPS）」
トークセッション：
金尻カズナ×松村徳子（日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク／デート DV 防止教育ファシリテーター）

PAPS（ぱっぷす　ポルノ被害と性暴力を考える会）理事として、ポルノの制作、販売・流布や性産業にかかわり困っている被害者たちを支援している金尻さんは、アダルトビデオへの出演をたくみに強要され、そこから抜けられなくなった幾つかの被害実例を具体的に話されました。被害者の女性や男性は、モデル業に勧誘され、身分証明書や学生証のコピーを取られ、やがて仕事の実態を知った時には、なんとかやめたいとあらゆる努力をするものの、どうにもならないと絶望し、諦めてしまうと、撮影に関わる側との一体感さえ生じてゆくというお話でした。

これを聞いて、日本軍「慰安婦」被害女性たちも、自分の置かれた絶望的な性奴隷の状況を受け入れることでしか生き延びられなかったのだろうと思いました。

PAPS は現在 400 件以上の相談を受け、大切なのは可視化することと考え、性売買事業者を社会にひっぱりだそうとしています。「大阪には飛田新地がありますが、ここは可視化されていますか？」との金尻さんの問いかけが参加者の心に鋭く迫る講演会となりました。

今回の集会のために準備した絵本「花ばぁば」のカードセッション。音楽とあわせて初披露！

終了後は、大阪市庁舎前までパレードし、道行く人々に＜「慰安婦」像は歴史の記憶、歴史を無視する市長はいらない＞と訴えました。

8・14 日本軍「慰安婦」メモリアル・デー ～金学順さんから始まった「＃Me Too」～ アピール

27 年前の今日、1991 年 8 月 14 日、韓国でひとりの女性が記者会見し「私は日本軍によって慰安婦にさせられた」と告発しました。金学順さんです。同様に、戦後 50 年近くも沈黙を強いられてきた日本軍性奴隷被害者たちは「私もだ！」と一斉に声をあげ始めました。まさに「#Me Too」のスタートでした。その声は韓国内にとどまらず、朝鮮民主主義人民共和国、台湾、中国、フィリピン、インドネシア、東ティモール、マレーシア等とアジア各地に拡がりました。その勇気ある名のり出と証言によって、歴史の闇に埋もれていた日本軍による性奴隷制度の実態が明らかにされてきました。

しかし、それは新たな闘いの始まりにすぎませんでした。「民間業者が連れ歩いた」と開き直っていた日本政府は、被害者証言や日本軍の関与を示す確たる証拠を突きつけられても、1965 年の日韓請求権協定や各国との二国間条約ですべて解決済みという立場を変えていません。2015 年の「日韓合意」では、被害者を排除して、10 億円のお金で「最終的で不可逆的な解決」を被害者に押し付けたのです。その後、韓国ではキャンドル市民革命を経て文在寅大統領が就任、昨年末には「日韓合意」検討結果報告が発表されました。そこでは、私たちに公開されていなかった「非公開合意」の存在や、日本政府が次々と要求を突き付け韓国政府にそれを飲ませるという、加害国としての責任を果たそうとしない、あるまじき日本政府の交渉態度も明らかにされました。

「慰安婦」問題は、国と国との外交問題ではなく、現在もなお続いている国家による人権侵害問題であり、被害者中心のアプローチによってこそ解決されるというのが、国際社会の基本認識です。しかし、日本政府は今なお「日韓合意」で解決したとの立場を変えず、国際人権機関の勧告や韓国政府に対して、抗議し続けています。韓国以外の国々で解決を求める被害者の声にも、まったく耳を貸そうとしていません。それどころか、フィリピンのマニラに建てられていた「慰安婦」像を、今年 4 月、「わが国の立場と相容れない」と圧力をかけ、撤去に至らせました。私たちは、日本政府の恥ずべき行為に抗議します！

戦時性暴力は現在なお世界の紛争地で繰り返されており、多くの女性や少女たちが犠牲となっています。また、現代社会におけるさまざまな形態の女性差別と性暴力に苦しむ女性たちの存在からも、目をそむけるわけにはいきません。

「慰安婦」問題を否定し、被害者を侮辱することをためらわない社会は、性暴力被害者に責任を押し付け、沈黙を強いる二次被害を与えます。女性への性暴力は、個人の人権侵害問題にとどまらず、国家や社会のあり様が問われている問題なのです。

今年も 8・14 日本軍「慰安婦」メモリアル・デーを迎え、「慰安婦」問題の解決と性暴力の根絶をめざし、世界の各地や日本の各地域で取り組みが進められています。

私たちは加害国の市民として、日本軍「慰安婦」問題の解決が早期に実現するよう闘います。そして、被害者たちの願いである「戦争や暴力のない平和な世界」を実現するため、被害者とともに進んでいきます。

2018 年 8 月 14 日　日本軍「慰安婦」問題解決全国行動　　共同代表　梁澄子　柴洋子

平和の少女像にこめた思い　韓国から制作者たちを迎えて

2018/1/31

ソウルの日本大使館前に建てられた「平和の少女像」を制作した金ソギョンさん、金ウンソンさんから少女像制作に込めた思いを聞きました。

水曜デモが1000回を数えようとする頃、偶然にデモを目撃したウンソンさんは、被害者が名乗り出て、加害者もわかっているのに20年間も問題が解決していないのかと、驚きました。そしてこれまで放っていた自分が恥ずかしく申し訳なく思って、芸術家の自分たちにできることはないかと挺対協を訪ねました。そして被害者の人権と名誉を回復するために始まった水曜デモ1000回を記念する「平和の碑」を制作することになりました。初めは塔の碑を考えていましたが、日本大使館が何も建てるなと言ってきたので、加害者が被害者に言うことではないと理解できず、彫刻の碑を建てることにしました。「慰安婦」被害者の姿は女性のソギョンさんが制作し、当時の少女の姿で、当時の痛み、戦後の痛み、失った夢、家族への思いを表した像を作ることで人々とコミュニケーションをとれるようにしました。

また、水曜デモに参加して謝罪する日本人を見て、ベトナム戦争時の韓国軍による民間人虐殺について正式に謝罪していないことに思い至り、謝罪のための像を制作しました。

世界各地にも女性の人権を侵害したことを記憶する慰安婦像が設置され、これに抗議する日本政府ですが、日本政府こそが歴史の事実を認め謝罪するべきです。

日本軍「慰安婦」問題解決全国行動はリーフレット「平和の碑が建てられた理由」を無料配布しています。お申し込みは関西ネットでも受け付けています。

「オレの心は負けてない」　～宋神道さんを忘れない～

2018/2/3

日本軍「慰安婦」被害者であり在日朝鮮人一世の宋神道さんが、昨年 12 月 16 日に老衰のため亡くなられました。95 才でした。ありがとう、宋さん。私たちは宋さんのことを忘れず、「解決」まで闘い続けます。

在日朝鮮人の宋神道（ソンシンド）さんは、日本におられたただ一人の名乗り出た「慰安婦」被害者でしたが、2017年12月16日に亡くなりました。尊厳を取り戻すために日本政府に謝罪と賠償を求めて闘った宋さんを心に刻む集いでした。

親が決めた相手との結婚式の日に逃げて、行く所がなかった宋さんは「戦地で働けば独りで暮らせる」とだまされ、中国の慰安所に連れて行かれ、7年間も慰安所に閉じ込められた後、だまされて日本兵と結婚し博多に上陸。戦後はそのまま日本で暮らされました。

名乗り出るきっかけを作った川田文子さんは、「言葉（日本語）がわからない日本兵が帯剣して来るので、いつ抜くかと、それが一番怖かった」「何度も逃げようとして殴られ蹴られ、少しずつ中国や戦争がわかってきて、『ここで生きるしかない』とあきらめた」と。

川田さん等と宋さんの裁判闘争や生活を支え続けた梁澄子（ヤンチンジャ）さんは、被害や民族性の回復ができていなかった宋さんが裁判を闘う内に、「裁判かけて体験を話してから、ちっとは安心したよ。オレも少しは人間らしくなった」と言っていたこと等を紹介されました。

沖縄で出会った「慰安婦」 川田文子さん講演会

2018/2/4

金が儲かると騙されて、1944 年朝鮮半島から沖縄渡嘉敷島の慰安所に連れてこられ、日本の敗戦後、沖縄本島で孤独に暮らしていたペ・ポンギさんを訪ね、初めて被害体験を聞き取ったのは川田文子さんです。

1945 年、収容所を出たペさんには食料も寝場所もありませんでした。そのため「サカナヤー」と呼ばれる飲み屋に行っては酔っ払いに身を売り、得た報酬を飲み屋の主人と折半。翌朝、また別の「サカナヤー」を探してさすらう日々。ペさんは「慰安婦」生活よりも酔っ払いに身を売る生活の方が辛かったと川田さんに話しました。

同じく川田さんが初めて話を聞いた被害女性たま子さんは、玉の井などの遊郭を転々としたのち、テニアンの遊郭にいた時に、警察から指名され、出征兵士のように万歳三唱で見送られてラバウルの慰安所へ。

敗戦後、沖縄に移り住んでからも売春以外に生きるすべはなく、米軍の通訳が連れてきた米兵に身を売り、稼ぎを通訳と折半することもあったそうです。植民地支配や生活苦、そして戦争、その中で多くの女性たちがどれほどの人権侵害を受けてきたかが具体的に伝わるお話でした。

少女像はなぜ増え続けるのか 岡本有佳さん講演会

2018/2/17

韓国を初め世界各国に広がる「平和の碑・少女像」はなぜ増えるのか、岡本有佳さんに聞きました。

ソウル日本大使館前の「平和の碑・少女像」は水曜デモが1000回を迎えるにあたってその歴史と精神を引き継ぐ記念碑として建設されました。

「日韓合意」により日本の各新聞はそれを歓迎しましたが、それに反発して韓国では少女像建設活動等が韓国全土に広がり 100 体になりそうな勢いです。

その活動には大学生や高校生らも参加しています。

また演劇、映画など芸術表現活動も盛んで性暴力問題を許さない活動の広がりを感じました。

★韓国のろうそくデモでも歌われたセウォル号の歌「真実は沈まない」You tube で聞けます。

日本では韓国の 50 万人キャンドルデモも国連が被害者への誠意ある対応を日本政府に求めていることも報道されませんが、日本国内でも行われている数少ない映画や演劇、展示などを積み重ねて、日本政府が第 1 歩を踏み出す日を座り続けて待っている少女像たちに伝える日がくるまで諦めず取り組みましょう。

「日韓合意」は解決ではない～政府は加害責任を果たせ！～

中野敏男さん講演会　2018/3/2

「韓国政府の合意検証」の内容はこれだ！
全国行動「声明」を拡げるための全国同時アクションin　関西

中野さんは「日韓合意」を「終わらせる合意」と表現し、それは、被害者を無 視して進めた政権間の「合意」という意味で、被害者を消去すると同時に、責任 を負うべき加害主体の認定があいまいであることによって、加害者をも消去していると話されました。そして、1965 年の「日韓請求権協定」もまた「終わらせる 合意」であったが、「完全かつ最終的に解決されたこととなることを確認する」と謳いながら、現実には解決しなかったと指摘されました。

続くお話によって、講演会参加者は、日韓請求権協定が、岸信介（安倍晋三の祖父）と朴正熙（朴槿恵の父）により生み出されたことの意味を思い知ったと言えます。つまり、戦後の日本では、植民地主義と侵略戦争の責任者が罪を不問にされ、そのまま権力を握り続けていることによって、民主主義も平和主義も偽物でしかなく、そのために「慰安婦」問題はいまだ解決せず、欺瞞的な「日韓合意」を生み出したということです。

韓国の人々が、政治の私物化に気づいた結果、ろうそく革命によって朴槿恵政 権を倒したように、私たちも、今の日本に民主主義はないと気づくところから始めて、自分たちの手で真の民主主義国を作らねばならないと痛感しました。

取材映像で見る紛争地における性暴力　玉本英子さん講演会

～イラク、アフガニスタンの女性たちから考える～　2018/6/19

2015 年 6 月 19 日、国連は紛争地における深刻な性暴力をなくすため、 6 月 19 日を「紛争における性的暴力根絶のための国際デー」に制定しました。

戦争が起こると治安が崩壊し、犯罪が横行、力のない者が犠牲になります。イスラムの戒律の厳しいアフガニスタンでも売春は存在しています。公衆浴場で出会った女性たちは夫を失った母親で生活のために売春の仕事をしており、16 歳の妊娠している少女もいました。戦争は貧困をもたらし女性や子どもの人権を奪っています。

イスラム教徒が多数のイラクにおいて少数宗教のヤジディ教徒は悪魔崇拝だとされ、IS に襲撃されました。男性は改宗しなければ銃殺され、女性は強制結婚させられ性的暴行や虐待を受けました。2018 年のノーベル平和賞を受賞したナディア・ムラドさんと同じように被害に遭われた女性の VTR もありました。8 ヶ月の息子とドイツへ逃れ慰安婦被害者キルウォノクハルモニと会われたそうです。

戦わせるために女性を利用する構造は日本軍「慰安婦」問題と通じるものがあり、VTR に登場した女性たちは、沈黙を破って声をあげていました。中東での「# Me　Too」運動であると言えるでしょう。今も取材をした女性たちと連絡を取っている玉本さんは、彼女たちの相談者であり支援者でもあると感じました。

★講演された玉本さん

もっと知ろう！

日本軍「慰安婦」問題と戦時性暴力
～韓国の若者たちが被害女性によせた思い～
ユネスコ世界記憶遺産登載申請嘆願ハガキ日本巡回展 in 大阪 2018/10/6～7

展示されたのはユネスコ国際連帯委員会メンバーである「日本軍「慰安婦」ハルモニとともにする統営・巨済市民モイム」が保有するハガキや詩画のほか、統営、巨済地域出身のハルモニたちの写真と紹介など。合わせて関西ネットでは「慰安婦」問題とは何か、経過や流れが分かる展示物を作成しました。パネル展示にあたっては市民モイムと関西ネットで議論を積み重ね、翻訳などの共同作業を通じて開催にこぎつけることができました。

韓国の若者が描いた詩画

トンヨンのハルモニを紹介

「終わらない戦争」などのビデオ上映会の後に行われたセミナーでは、市民モイム代表の宋道子さんが「慶南地域日本軍『慰安婦』被害の聴き取り調査の意味と課題」として2015年以降、市民の手による被害者の調査・発掘と記録作業を重ねる中で多数の推定被害者を発見するに至り名のり出ることなく亡くなられた被害女性を代弁する貴重なものであると強調されました。

東北アジア歴史財団研究委員の朴貞愛さんは、「口述と文書、写真を通して、考える日本軍「慰安婦」被害女性のはなし」と題してのお話でした。

日本軍と連合軍の公文書や捕虜尋問資料から、トラック諸島からの帰還船名簿に26名の少女たちがいて、李ポクソンさんの証言と一致するなど証言を裏付ける証拠としてこの調査がとても重要だと語りました。

関西ネットの方清子さんからは、10年の歴史を振り返り、困難をのり越えてなお厳しい状況にあるものの、連帯した力で取り組んでいくことを確認しました。

水曜集会に参加しよう！

毎月第一水曜日 19：00～
場 所 梅田ヨドバシカメラ前

＜ お知らせ ＞
2019 年 1 月の水曜集会は
第二週目の 9 日(水)開催です！

平和の碑 缶バッチ＆シール 好評発売中！！

★ **缶バッチ**
グリーンとピンクの 2 種類
1 個 100 円

★ **シール**
A6 判用紙に 4 ピース
1 枚 100 円

＜活動協力金のお願い＞

昨年 12 月のニュースレター発行以後、丸一年が経過しました。その間に皆様からお寄せいただいた活動協力金・カンパは 230,453 円にのぼります。お一人おひとり宛てにはできていませんが、皆様に心よりお礼を申し上げます。

関西ネットはこの一年、皆様のご参加をいただき、本号で紹介しているような様々な活動を行いました。その中には、会計から赤字補填をしなければならない催しも多々ありました。それでも、資金面の心配をすることなくタイムリーな活動ができたのは、ひとえに皆様のご支援のお蔭と感謝しています。

過去の歴史と向き合おうとしないこの国の現状を、市民の側から変えていくため、来年も様々な活動に取り組みます。これからも、皆様とともに関西ネットの活動を進めるため、ご支援ご協力をどうかよろしくお願いいたします。

振込口座：00980—3—209232
口座名義：日本軍「慰安婦」問題 ・関西ネットワーク

★2018 年 1 月から展開した「全国同時アクション」の報告集です。
ぜひ、購入ください。
お求めはメールでも OK です。

「日韓合意」は解決ではない

2018 年 8 月 14 日発行
B5 版 80 頁
500 円
出版：日本軍「慰安婦」問題解決全国行動

平和の碑リーフレット
無料配布してます！
こちらまでお問い合わせ下さい

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク

〒540-0038
大阪市中央区内淡路町 1-3-11 ｼﾃｨｺｰﾌﾟ上町 402 市民共同ｵﾌｨｽ sora 気付
TEL：090-8383-4197
Email： info@ianfu-kansai-net.org HP： http://www.ianfu-kansai-net.org/
Blog ： http://ianfukansai.blog.fc2.com/